

科目 26

科目名	IT ソリューション IT Solutions		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・金・3 限	秋・金・6 限	-	-
担当教員名	大塚 晃	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>IT (Information Technology : 情報技術) の高度化に伴い、現在価値を生み出している企業は IT を抜きに語ることはできない。また、業務の効率化においても IT に頼るところが大きい。特に、クラウドを用いたサービス提供も進化を遂げ、さらに情報セキュリティの重要性が増し、データ利活用のあり方も課題となっている。</p> <p>本講義では、情報システムの全体像を学ぶことで、ビジネスに応用できる情報技術を向上させ、IT によるソリューションビジネスについて議論する。</p> <p><到達目標></p> <p>IT ソリューションを理解し、IT を活用した事業創造、事業革新を検討、提案できる能力を身に付けることを目標とする。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>IT を事業に活かすための考えなど重要な事項については、ディスカッションにより理解を深める。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>IT に関するソフトウェア開発の事例、および事業としての取り組みをゲストスピーカーにて講義する</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 回目： <IT ソリューション概論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：IT ソリューションの背景を説明し、講義の概要・目的・計画を理解する。 <p>2 回目： <情報システム戦略（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：経営戦略を実現することが情報システム戦略の目的である。IT ソリューションを考える上で、重要である情報システム戦略について理解する。 <p>3 回目： <情報システム戦略（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：情報システムの変遷と情報システム戦略の関係を説明し、IT 戦略の立案について学ぶ。 <p>4 回目： <ソリューションビジネス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：ソリューションビジネスの概要と業務形態について理解し、ソリューションビジネスの課題について考える。 <p>5 回目： <プロジェクトマネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：IT ソリューションにおけるマネジメントとして、プロジェクトを成功に導くためのプロジェクト管理について理解する。 <p>6 回目： <サービスマネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：IT サービスの安定的な提供と継続的な改善を管理するサービス管理について理解する。 <p>7 回目： <ソフトウェア開発手法（1）：ゲストスピーカー（日本マイクロシステムズ株式会社）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：情報システム構築のための、ソフトウェア開発・設計手法について理解する。 <p>8 回目： <ソフトウェア開発手法（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：情報システムの要件定義、調達計画、実施について理解する。 				

9 回目： <情報セキュリティ（1）>

・要点：情報セキュリティについて理解し、現状の情報セキュリティの脅威について議論する。

10 回目： <情報セキュリティ（2）>

・要点：情報セキュリティを確保するための基本技術について理解する。

11 回目： <交通と IT ビジネス：ゲストスピーカー(株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟)>

・要点： IT を活用したビジネスとして、交通、安全を例としたビジネスを紹介する。

12 回目： <クラウドコンピューティング>

・要点： クラウドコンピューティングの基本について説明し、技術、および導入について理解する。

13 回目： <IT ソリューションビジネス：ゲストスピーカー(Code for Niigata)>

・要点： クラウドの活用として、クラウド事業者、クラウド利用事例について説明する。

14 回目： <デジタルトランスフォーメーション>

・要点：ビジネスにおける「デジタル」の価値を理解し、「デジタルトランスフォーメーション」について議論する。

15 回目： <IT ソリューション>

・要点：IT ソリューションの全体をまとめ、IT を事業に活用するためのディスカッションを行う。

<講義の進め方>

基礎知識、最新技術動向などは、説明、および解説を行う。また、重要な事項については例題や演習、ディスカッションを通し、理解を深める。

<事前事後学修内容>

事前に配布する資料を精読の上、検討のポイントをまとめるとともに、不明点の洗い出しを行うこと。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をします。

<教科書及び教材>

講義に使用するテキストは配布する。

<参考書>

「Harvard Business Review テクノロジーは戦略をどう変えるか」、2018 年 1 月、ダイヤモンド社

「PHRONESIS 事業創造の大転換」、2017 年 3 月、ダイヤモンド社

「データの世紀」、日本経済新聞データエコノミー取材班編、日本経済新聞出版社

「IT コンサルティングの基本」、克元亮著、日本実業出版社

「SE の基本」、山田隆太著、日本実業出版社

「プロジェクトマネジメントの基本と要点」、鈴木安而著、秀和システム

「情報セキュリティ白書 2020」、情報処理推進機構

「GDPR ガイドブック」、足立照嘉 他著、実業之日本社

「暗号」、辻井重男、講談社学術文庫

「暗号技術入門 第 3 版」、結城浩著、SB Creative

「IBM の思考とデザイン」、山崎和彦 他著、丸善出版

「一橋ビジネスレビュー デジタル・トランスフォーメーションと日本企業の命運」、2020 年秋、東洋経済新報社

「対デジタル・ディスラプター戦略」、マイケル・ウェイド 他著、日本経済新聞出版社
「デジタルビジネスモデル」、ピーター・ウェイル著、日本経済新聞出版社

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しない。

中間レポート、最終レポート、講義でのディスカッションを3：5：2の比率にて評価する。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

原則として講義にて行い、別方法でのフィードバックの場合は別途指示をする。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当。

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

木曜日4限

<その他>

講義で使用するテキストに加え、参考書、およびITに関する技術・ビジネス分野に関する書籍、新聞記事を適宜学修のこと